

おいでよ友情の杜！ ～「姉妹都市交流会館」で秋を楽しもう～

村の国際交流活動の拠点として、外国人との交流イベントや各種会議などに使われている「姉妹都市交流会館」。その隣にある友情の杜が、紅葉の名所であることをご存じですか。美しく色づいたカエデやイチョウを眺めたり、ドングリやギンナンを拾ったり…。ぜひご家族そろって散策をお楽しみください。

また下記の日程で、姉妹都市交流会館にちなんだクイズを楽しめます。正解数に応じてかわいいイモゾーグッズを差し上げます。

期間▼11月2日(月)～11月下旬(日曜日を除く)

※グッズがなくなり次第終了します。

時間▼午前10時～午後4時

場所▼姉妹都市交流会館(東海村役場西側)



クイズは全部で5問!
回答すると、イモゾーグッズ
がもらえるよ♪ ぜひ挑戦し
てみてね!!



問い合わせ▼姉妹都市交流会館(☎282-0535(午前9時～午後5時))※詳細は、姉妹都市交流会館フェイスブック(右QRコードよりアクセス可)をご覧ください。



ふるさと歴訪



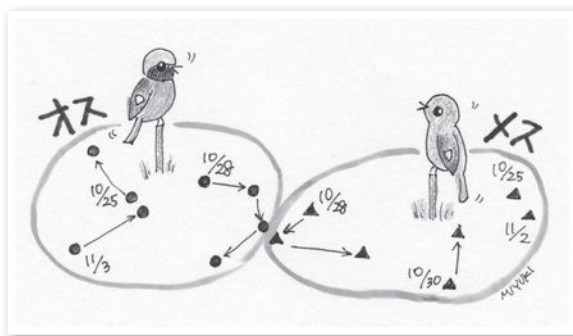
～自然を探して～

小さな冬の使者 ジョウビタキ

朝晩の寒さも増してくる頃、「ヒッ、ヒッ」とよく通った声が聞こえるようになりま。鳴き声の主は「ジョウビタキ」。毎年10月下旬頃、越冬のために日本に渡ってくる、身近な冬鳥の代表種です。

鳴き声が聞こえたら、姿を探してみましよう。スズメよりほんの少し小さな鳥ですが、公園や道端の低木、畑のくいや電線など、人目に付きやすい開けた場所にも姿を見せてくれるので、双眼鏡がなくても見つけることができます。雄は鮮やかなオレンジ色の白髪頭、雌は全体が薄茶色です。よく目立つ翼の白い斑点が着物の「紋」に似ていることから、「紋付き鳥」とも呼ばれます。

冬の小鳥たちには群れで食べ物を探して過ごすタイプの種類も多いのですが、ジョウビタキは雄も雌も1羽ずつ、縄張りを持って過ごす単独タイプです。冬はジョウビタキが好



んで食べる草の実や小さな虫は限られているため、互いに適切な距離を確保しておくことで、食べ物を巡った争いを避けているようです。

その距離はどのくらいでしょうか。私は小学生の頃、自宅周辺で「縄張りマップ」を作ってみたことがあります。作り方は簡単で、ジョウビタキを見掛けたり、声を聞いたりしたら、用意した地図にその場所を書き込むだけです。時には2羽が近くで鳴いて縄張り争いすることもあり、飛び去った方向も書き込んでいくと、次第に縄張りの境界線が見えてきます。

落葉して小鳥が見やすくなる冬。今年は皆での野鳥観察会は難しいかもしれませんが、野外でうまく距離をとりながら、鳥たちの距離感を探ってみるのも楽しそうです。ジョウビタキは「カッカッ」と火打ち石を打つような声でも鳴き、こちらがまねして舌を鳴らすと、尾羽を縦に振りながらチョコンと頭を下げてお辞儀してくれます。いつもの散歩道、同じ場所で見られるジョウビタキと顔見知りになれるかもしれません。

農研機構 中央農業研究センター
虫・鳥獣害研究領域 鳥獣害グループ

益子 美由希